

**R8.4.23 「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)公募説明会」  
「共創の場形成支援プログラム」に期待すること**

**文部科学省 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室長**

**平野 博紀**



文部科学省

# 第7期科学技術・イノベーション基本計画（令和8年3月27日閣議決定）

- 科学技術・イノベーション基本法に基づき、令和8年度からの5年間を対象として策定
- 基礎研究から社会実装までの加速度的短縮と「科学とビジネスの近接化」等の現状認識を踏まえ、科学技術を国力の源泉にイノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの再構築を目指す

## 第5章 産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化

### 3.地域イノベーションの推進（1）地域課題の解決を推進する取組

産学官の多様な主体が連携する機会を創出するため、地域の大学等の「知」の拠点において地域イノベーションを支えるための施設・設備等の共用化やキャンパス全体の「共創拠点化」を図り、総合知の活用や先端知の普及を通じて地域課題の解決に取り組み、地域発のスタートアップの創出を中心とした産業の革新を進めるとともに、雇用の創出を行う。これらの取組を産学官が連携した地域オープンイノベーション等の形で展開し、新しい価値の社会実装を推進する。

### 同（2）多様な主体の参画による地域イノベーションのための人材育成の取組

博士人材のキャリアパスを拡大するとともに、若手研究者の地域への定着を促進するため、若手研究者が独創的なアイデアを生かし、革新的な研究開発技術を基にした産学官共創の実現を目指す取組を支援する。また、地域の大学や研究機関等の「知」の拠点が関わる形での地域発のスタートアップの創出支援を通じ、若手人材の活躍の機会を生み出す。

# その他若手研究者を取り巻く政府の動向

## 経済財政運営と改革の基本方針2025（令和7年6月13日閣議決定）

官民連携による、先端大型研究施設の戦略的な整備・共用・高度化の推進や、高度専門人材の育成・確保、博士課程学生や**若手研究者の安定ポスト確保による処遇向上、産学官の共創の場の形成**、大学病院における教育・研究・診療機能の質の担保に向けた医師の働き方改革の推進などによる研究環境の確保により、我が国の研究力を維持・強化する。

## 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（令和7年6月13日閣議決定）

若手研究者の支援及び育成の観点から、海外での博士取得や国際学会への送り込み等の海外での研さんの機会を強化するとともに、**我が国の研究活動の中核である大学について、若手研究者の育成若しくはポスト確保のための人事給与マネジメント改革及びガバナンス改革等を進める。**加えて、**若手研究者を中心とした挑戦的・国際的・創発的研究への支援の積極的な拡充や、国際共同研究支援の拡充**に取り組む。

## 財政制度等審議会 財政制度分科会（令和5年10月11日開催）資料1

トップリサーチャーの半数以上は40歳未満であり、**論文の生産性を高めるためには、若手研究者の活躍機会を確保する必要**。若手研究者の登用が進まない現状を打破するため、人事制度や研究費等の配分方法に係る改革を行う大学等を積極的に評価すべき。

## 背景・課題

- **地域の大学等は**、地域課題解決に資する地域特有のポテンシャルを活かした先端的な研究開発など、**地域経済の活性化や魅力ある地域社会・文化形成に寄与する、中核的な存在**。
- **地域の未来に向けて将来の産学官共創を牽引する**存在として、**挑戦的な研究への意欲、高い適応力等を有した若手研究者**の活躍を促進することが必要。将来の産学官共創拠点に向け、**産学共創のタネとなる独創的・挑戦的な研究成果の創出**や**優秀な研究者の地域の大学等への呼び込み等**も重要。

## 実施内容

### 【目的】

**独創的・挑戦的な若手研究者が、地域の社会課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果を創出し、地域の未来に向けた産学官共創拠点を構築する。**

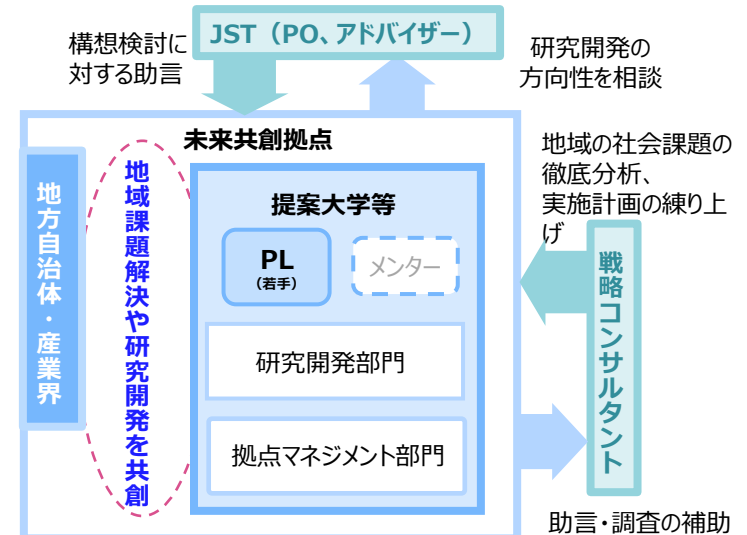
### 【事業のポイント】

- **独創的・挑戦的な若手研究者**（45歳未満）が**PL**（プロジェクトリーダー）として**拠点の責任者**となり、学内外の研究者や自治体・産業界を含む**プロジェクトチームを構築**。
- （フェーズ1）提案大学等が、地元企業や自治体等とともに、**地域の社会課題を徹底分析し、実施計画の練り上げを行う**。その際には戦略コンサルタントを活用するほか、JSTのPO（プログラムオフィサー）/アドバイザー等の助言を得る。
  - ✓ 小規模な研究開発（根拠の確認）、運営/研究開発体制とマネジメントの仕組み構築、ステークホルダーとの関係強化等も実施。
  - ✓ 提案大学等は、若手研究者がプロジェクト活動に注力できる体制整備・権限付与等の環境整備を実施。
  - ✓ 必要に応じて産学官連携に係る活動の経験が豊富なメンターを配置し、運営・活動全般の支援・助言を実施。
- （フェーズ2）フェーズ1の2年度の支援後、昇格審査を経て本格的なプロジェクト活動（最長5年度）を想定。
  - ✓ フェーズ1で練り上げた実施計画に基づき、若手研究者を中心としたチームによって、グローバル水準の研究成果の創出と産学官共創拠点の形成を実施。

### 【独創的・挑戦的な若手研究者について】

- 筆頭著者の論文は20代後半に最も多い
- 新しい視点と柔軟性、挑戦的な研究への意欲、高い適応力、最新技術の活用能力（データ解析やシミュレーション技術）、国際的なネットワークの構築力等の特徴を有する

### 【拠点体制】



# 【プロジェクトの構成イメージ】

(※1) 地域: 参画する自治体(幹事自治体を含む)の行政区域

**地域未来社会ビジョン: ○○が○○する○○な社会**  
地域(※1)が目指す未来のありたい地域の社会像(地域の自治体が掲げている目指すべき姿や方針(中長期計画)等を基に設定)

## 拠点

ボトルネック1: ○○  
地域未来社会ビジョンの実現に向けて乗り越えるべき問題点

ボトルネック2: ○○

ボトルネック3: ○○

■ 目指す拠点像: ○○  
の特徴を活かしながら  
地域の○○に貢献する  
拠点

地域未来社会ビジョンを踏まえつつ、研究開発上の強みを活かし、どのように当該地域に貢献し、どのように他の地域等に波及させる拠点となりたいか

■ ターゲット1: ○○を実現する技術の確立  
ボトルネックを克服する上で必要となる研究開発上のPoC目標(社会実装の可能性がある  
と判断できる到達水準)であり、フェーズ2終了時(7年度目)の達成を目指す

■ ターゲット2

■ キーサイエンス1: ○○○  
ターゲットの達成にたもので、提案時点でPLらが有する科学的に重要で中核となる研究の強み(※2)

■ キーサイエンス2: ○○○

■ 研究開発課題 1  
○○の構築  
・中間目標1  
(フェーズ2 1年目)  
・中間目標2  
(フェーズ2 3年目)  
・最終目標  
○○

■ 研究開発課題 2  
○○  
・中間目標1  
(フェーズ2 1年目)  
・中間目標2  
(フェーズ2 3年目)  
・最終目標  
○○

■ 研究開発課題 3  
○○  
・中間目標1  
(フェーズ2 1年目)  
・中間目標2  
(フェーズ2 3年目)  
・最終目標  
○○

(※2) 全てのターゲットにキーサイエンスが対応していなくてもよい。 4



# 本事業の申請にあたって御留意いただきたいこと



## バックキャストによるプロジェクトの構成がなされているか

①地域が目指す未来の社会像に、  
どのように貢献する拠点を目指すのか

▶▶ **地域未来社会ビジョン、  
目指す将来の拠点像の設定**

- ・**地域の課題の分析**がなされているか
- ・**自治体と問題意識が共有**されているか
- ・地域の課題の中で、**大学等が果たすべき役割**が明確になっているか

②地域の現状を分析した、  
未来の社会像とのギャップは何か

▶▶ **ボトルネックの特定**

- ・特定した**ボトルネックの取捨選択、優先順位付け**（拠点として貢献できるものか、事業規模の制約への考慮があるか）がなされているか

③ボトルネックを克服するための具体的な  
目標（プロジェクト終了時のPoC）は何か

▶▶ **ターゲットの特定**

- ・ボトルネックを克服するために、**他の代替手段と比較して効果的なもの**であるか
- ・**プロジェクト実施期間を考慮したPoC目標**となっているか
- ・**大学等が持つシーズありき**になっていないか

④ターゲット達成の中核となる  
研究の強みは何か

▶▶ **キーサイエンスの特定**

- ・**PLらが真に強み（独創性・優位性）を持つ研究**となっているか



# 本事業の申請にあたって御留意いただきたいこと



## 地域の課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果を目指しているか

### 地域の課題に寄与

- 地域の社会課題の徹底分析によって特定されたボトルネックを克服
- PLらが強み（独創性・優位性）を持つキーサイエンスを活用

### グローバル水準

- グローバル水準で評価されるサイエンスとしての独創性・優位性
  - 類似の課題を持つ国内外の地域への横展開、他地域へのローカライズ手法の確立
- ※プロジェクト実施期間に限らず、拠点として将来的な展開に期待

### 「地域」と「グローバル」が矛盾しない独創的・挑戦的な研究成果の創出を期待

（地域課題であっても、それを解決するサイエンスがグローバルに通用しない既存技術とは限らない）

## 若手研究者のリーダーシップ、挑戦を支える体制ができているか

若手研究者をPLとしたプロジェクトチームの構築にあたっては、

- ・ 若手研究者の活躍促進や人材流動化を促進するシステム改革
- ・ 若手研究者を中心としたチームが研究に専念できる環境整備や産学官共創の支援
- ・ 地域で不足する人材の当該地域の資源のみに頼らない外部からの誘致

等の大学等における全学的な体制を整備することを期待



## フェーズ1でのプロジェクト実施計画の練り上げの構想を具体的に持っているか

フェーズ1の2年度間では、戦略コンサルタントによる客観的な立場からの支援を活用した検討を行い、フェーズ2に向けた実施計画の練り上げ等を実施

### フェーズ2に向けた実施計画の練り上げ

- 地域の社会課題の分析、その解決に向けてボトルネックとなる問題点の明確化
- キーサイエンスに関する国内外とのベンチマーク
- 社会課題解決に向けたボトルネックを踏まえたターゲットや研究開発課題の設定

等

※上記を踏まえ、ビジョンに立ち返った、ボトルネック・ターゲット・キーサイエンスといった要素の関係性の整理（プロジェクト実施期間も考慮した取捨選択、優先順位付け）、必要なステークホルダーの巻き込み・関係強化も必要

このように練り上げられた実施計画により、フェーズ2において、プロジェクト終了後の自立的・持続的な産学官共創拠点の形成を目指す



若手研究者のリーダーシップ、挑戦を大学等が支え、

産学官共創を牽引する研究人材の育成・輩出、

若手研究人材の人材循環の促進、

ひいては地域貢献と世界に通用する研究力の高い地域の大学等への

発展を目指す提案を期待。

人が変わる



大学が変わる



社会が変わる



**御清聴ありがとうございました。**